

## 新規受託開始及び受託中止のお知らせ

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

この度、下記の検査項目につきまして、新たに受託開始及び受託中止をさせていただくこととなりましたので謹んでご案内申し上げます。

先生方には何卒ご利用いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

謹白

### 記

#### ■新規受託開始項目および実施日

【実施日】2022年 3月 31日(木) ご依頼分より開始

項目コード	検査項目	提出量(mL)	容器	保存	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考
4450	HIV-1/2 特異抗体	血液 3.0 血清 0.5	X	冷蔵	5~7	660 免疫	イムノクロマト法	陰性	他項目との重複依頼は避けてください。確認検査(イムノクロマト法)をご依頼の際には、改めて採血しご提出ください。 ⑫&ウ

#### ■受託中止項目及び最終受付日

【最終受付日】2022年 3月 30日(水) ご依頼分をもって受託中止

項目コード	項目名	検査案内掲載ページ	備考
3583	HIV-1 抗体/WB	未掲載	新規項目受託開始に伴い、受託を中止させていただきます。
3584	HIV-2 抗体/WB		

以上

検査のご依頼に関するご不明な点やご要望等につきましては、弊社営業担当、または学術インフォメーションまでお問い合わせ下さい。TEL:075-631-6230

## ● HIV-1/2 特異抗体

HIV-1/2 の抗体確認検査に有用な検査です。

HIV は AIDS (後天性免疫不全症候群) 発症の原因ウイルスで、持続感染の末に宿主の免疫システムを破壊し免疫不全を引き起こすことが知られています。その結果、発熱、疲労感、体重減少及びリンパ節腫脹等の全身症状に始まり、機能不全を主とした細胞性免疫不全を基調とし、原虫、真菌、ウイルス、細菌などによる日和見感染あるいはカポジ肉腫のような悪性腫瘍を合併します。

本項目は日本エイズ学会・日本臨床検査医学会の標準推奨法(参考文献参照)で、HIV-1/2 スクリーニング検査で陽性または判定保留となった場合に実施する抗体確認検査法です。

従来のウエスタンブロット(WB)法による抗体確認検査法では低い感度や交差反応による判定困難な事例が知られ、本項目で検出感度の改善および HIV-1 と HIV-2 同時測定が可能となり、HIV 抗体確認検査として有用です。

### ▼疾患との関連

HIV-1, 2 感染症  
AIDS(後天性免疫不全症候群)

### ▼関連する主な検査項目

3162 HIV 抗原・抗体  
3327 HIV-1 RNA 定量

### —参考文献—

日本エイズ学会・日本臨床検査医学会:診療における HIV-1/2 感染症の診断ガイドライン 2020 版

Moon H-W, et al:PLoS ONE 10(9)e0139169:1~7, 2015. (臨床的意義参考文献)

Kondo M, et al:PLoS ONE 13(10)e0198924:1~10, 2018. (検査方法参考文献)